



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための
「連携・協働」の推進



10月を迎えます

今年度も後半戦！

厳しかった夏の暑さも和らぎ、「秋」という季節を感じられる日が、徐々に増えてきました。これからの季節は、「読書」の秋、「スポーツ」の秋、「文化・芸術」の秋……等々、何をするにも気持ちの良い季節を迎えます。生徒たちの活躍がますます楽しみです。

また、令和7年度も4月にスタートしてから、6か月が過ぎ、1年の学校生活の半分が終了します。

今の生活はどうですか？

充実した生活を送っていますか？

この4月からの活動を振り返り、良かった点と課題となる点について考えてみてください。そして、新たな目標を立ててください。

本校では、生徒の「自立」を促す取組を推進しています。生徒一人一人が安心して、自分らしく振る舞える環境がその基盤となります。保護者や家族、そして地域の皆様からの温かな声かけは、生徒たちのやる気を引き出し、時として、



小中合同研究授業（音楽）9月24日



「楽とどうし」太鼓出演 9月25日

持てる以上の“力”を発揮させます。褒めて伸ばす時代において、生徒たちの良い面に目を向け、些細なことでも

も見逃さずに認めていけるよう、努めていきたいと思っています。それは大きな自信につながっていくのではないかと考えます。



雑感（わたしの独り言）

世界陸上TV観戦

先日、34年ぶりに東京で開催された世界陸上が閉幕した。日本選手の活躍、世界記録の更新、新旧スター選手の交代等々、見どころいっぱい大会に、連日連夜、TVの前で、声援を送り続けた。有力選手が予選落ちしたり、フライングで失格になったりする等、勝負の厳しさ、集中力や精神力のすごさを感じた。人間はどこまで速く、高く、そして、どこまで強くなるのだろう。

国が定める「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」では、“スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つ”とある。また、私たちが、“生涯にわたりスポーツに親しむことができる豊かな「スポーツライフ」を送ることは大きな意義があり、競技スポーツに打ち込む競技者のひたむきな姿は、スポーツへの関心を高め、夢や感動を与える等、活力ある健全な社会の形成にも貢献している”ともいう。

スポーツは、言語や文化が異なる者同士であっても、共に楽しむことができ、実際にスポーツをしていなくても、観戦や応援を通してつながることもできる。

今回の世界陸上でも、その象徴的な場面を目撃した。それは、男子棒高跳の世界記録保持者、デュブランティスの世界記録更新への挑戦だ。大会3日目の国立競技場は、午後11時を過ぎても満員のままで、5万を超える観衆の視線は、彼の方に注がれていた。TVの前にいる私にもその臨場感が伝わってくる。ここまで2回の試技を失敗し、最後の挑戦。静寂の中、彼の助走と共に、割れんばかりの大歓声、そして見事成功……。

振り返ってみると、私自身、中学時代は野球部、高校時代は陸上部に所属し、部活動を通して、スポーツに親しんできた。スポーツは、様々な形で、誰もが気軽に楽しめるもの。私たちの生活はより楽しく、充実したものになる。

